



NewsPicks

自社製モデムやAI採用、大きな
リスクをとる次のiPhone SEは主
役級スマホになる

22161412 高橋 和真

iPhone SEとは何か

2016年に登場したSEシリーズは、中価格帯を狙ったiPhoneであり、価格は約450ドル程度（日本では税込6万2800円から）で、メインシリーズの標準モデルより大幅に安価だ。

この価格を実現するため、アップルは主要なスペックを抑え、既存部品や旧式デザインを再利用して原価を下げつつ、なんとか「iPhoneらしさ」を保ってきた。



アップル初の自社製モデムはiPhone SEへ

アップルは2019年、約10億ドル（約1530億円）でインテルのモデム部門を買収して以来、Qualcomm製モデムから自立することを目指してきた。

その成果として、買収から6年後、アップル独自のモデムが初めてiPhone SEに搭載されることになる。

ただし、新しい5G回路はSub-6帯域のみ対応で、超高速通信が可能なミリ波は非対応だ。

さらにキャリアアグリゲーション（複数の周波数帯を束ねて通信速度を向上する技術）も、Qualcomm製ハードウェアでは6バンドが利用できるところ、アップル製モデムは4バンドにとどまる。



Apple Intelligence

アップルがPR戦略で生成AIへの注力を強調している以上、iPhone SEがApple Intelligenceをサポートせずに登場する可能性は低い。

つまり、SEのスペックはiPhone 16に匹敵する必要がある。

結果として、iPhone SEはより小型で安価でありながら、iPhone 16と同等の性能を備えることになる。


その状況で消費者はなぜわざわざiPhone 16を選ぶのか。多くのユーザーが小型かつ安価なSEへ移行し、アップルの売上を圧迫する可能性がある。

再定義されるiPhone SE

一貫した「SE」という名前のおかげで、このモデルは初代からの愛用者を含め幅広く支持されてきた。

この点は2025年に登場する第4世代モデルでも変わらないだろう。

通常、SEシリーズは最先端技術を前面に打ち出すことは少ないが、新しい自社製モデム、生成AI、そして標準モデルと同等のスペックを揃えるという新時代において、iPhone SEは主役級の役割を果たすことになる。



コメント

- 長くSEユーザです。SEのサイズの方が使いやすいんですよ。ボタンもある方がいい。AI搭載の次期モデルも気になります。
- 確実にAI搭載になるでしょうから、とんでもなくコスパは良さそう。

感想

- ▶ iPhoneSEは格安モデルで性能も最低限という印象が
ありましたが、これからは生成AIの力でハードの性
能が低くても、ソフトの性能でカバーすることがで
きるようになるのかもしれないとわかりました。
- ▶ 価格安く、良いものが手に入るなら、わざわざ高い
ものを買う必要もなくなると思います。